

埼玉県支部

中小企業の強みを引き出す「知的資産経営」の普及に関する調査研究

中小企業にとって、めまぐるしく変容する企業環境の中で、100年企業の老舗企業のように事業を継続していくことは大きな課題です。本報告書は、「見えざる資産」である会社の強み（知的資産）をしっかりと把握して、それを活用することが事業を継続していく有効な手法の一つであると考え、普及の遅れている関東地域の中小企業へ「知的資産経営」を広めることを狙いとしてまとめました。本報告書は、4つの章から構成されています。

まず第1章では、「知的資産経営の経営革新計画への活かし方」について、知的資産経営を進めていくためのツールである「知的資産経営報告書」の作成のポイントやその活用方法について解説しました。

第2章は、「知的資産経営への取組みの実態調査」と題し、「公益財団法人ひょうご産業活性化センター」と「但馬信用金庫」の現地ヒアリング調査、関東の地域金融機関へのアンケートおよび訪問ヒアリング調査、知的資産経営報告書作成企業へのアンケート調査で得た実態報告を行いました。ひょうご産業活性化センター、但馬信用金庫のヒアリングでは、知的資産経営報告書は「伝える」というメリットが大きい点、普及のためには金融機関との協力や、報告書の信頼性・信憑性が重要であるとお話をいただきました。また、関東の地域金融機関の調査では、認知度は低く、関心はあるが積極的に取り組む姿勢の金融機関は少ないという実態を把握できました。取り組んでいる企業のアンケートからは、目的の重視度に応じ広く効果があったこと、具体的表現やKPI・KGIの設定で苦労したことなどの実態がわかり、報告書作成ポイントとして、目的の明確化、KPI・KGIの設定の重要性、信頼性・信憑性の確保などが浮かび上がってきました。

第3章では、第2章の実態調査の結果を受け関東地域における知的資産経営の普及に向けたポイントについて提言を行いました。一つは、「知的資産経営報告書」の信頼性・信憑性を確保することについて4つの観点から考察しました。二つ目には、「知的資産経営」を中小企業にとって有効な手法にするには支援者の責任も大きく、支援のあり方について4つの点に触れました。最後に、具体的な支援を行う場合のスキームについて埼玉県支部「知的資産経営普及委員会」が策定しました報告書作成支援および活用支援の二つからなる「支援のスキーム」を掲載し、報告書の作成支援にとどまることなく、活用支援も担っていくことの重要性を提案しました。

最後の第4章は、今回の調査研究に携わった埼玉県支部「知的資産経営普及委員会」の委員による座談会を行い、本調査研究での感想や意見を掲載し締めくくりとしました。